

日本手話と日本語の違いを学ぶ I			
担当教員	中野聡子・下島恭子(非)	対象年次	2年次～4年次
科目分野	【共同教育学部】forefront 科目	講義回数	15
授業形式	演習	単位数	2

授業の目的

障害者差別解消法(2016)、各地の地方公共団体で制定されつつある手話言語条例,手話施策推進法(2025)に基づいて、ろう児・者が、教育や生活全般にわたり手話でアクセスできるようにするための支援人材育成と環境整備が喫緊の課題となっている。

本講義では、サマリートレーニングと日本手話による言語活動を通して、教育場面を含む日本手話の言語スキルとコミュニケーションスキル、手話通訳の基礎スキルを高めることを目的とする。

授業の到達目標

■日本手話で、CEFR（学習、教授、評価のためのヨーロッパ言語共通参照枠）B1-B2 レベルの言語運用力を身につける。

CEFR B1：

仕事、学校、職場で普段出会うような身近な話題について、標準的な話し方であれば主要点を理解できる。手話で話されるときに起こりそうなたいの事態に対処することができる。身近で個人的にも関心のある話題について、単純な方法で結びつけられた脈絡のあるテキストを作ることができる。経験、出来事、夢、希望、野心を説明し、意見や計画の理由、説明を短く述べるができる。

CEFR B2:

自分の専門分野の技術的な議論も含めて、抽象的かつ具体的な話題の複雑なテキストの主要な内容を理解できる。お互いに緊張しないで手話母語話者とやりとりができるくらい流暢かつ自然である。かなり広範な範囲の話題について、明確で詳細なテキストを作ることができ、さまざまな選択肢について長所や短所を示しながら自己の視点を説明できる。

■「言語としての日本手話 IA/IB・IIA/IIB」で習得済みのものを含めて、日本手話の基本語彙 2,250 語を習得する。

■「意味の理論」に基づく起点言語の理解の仕方ができる。

■ ろう者の生活や文化を紹介する話題について、日本手話から日本語、日本語から日本手話に適切かつわかりやすく翻訳できる。

(厚生労働省手話通訳者養成カリキュラム基本課程相当)

ディプロマポリシーとの関連(評価の観点)

- A：諸科学についての基礎的知識と理解 ○
- B：論理的・創造的思考力 △
- C：コミュニケーション能力 ◎
- D：社会的倫理観・国際性 ○
- E：学校教育・教職の基礎理論と知識 ー
- F：子どもの成長・発達と教育方法 ○
- G：教科・教育課程に関する知識と技能 ー
- H：学校教育に関する様々な課題 ○
- I：他者との協働 ◎

授業概要

授業では、日本手話のスキルを高める言語活動と「意味の理論」に基づく起点言語理解のためのサマリートレーニングを中心に行う。毎週、授業時間外で取りくむ課題を提示する。課題は、手話通訳の前提となる日本手話と日本語の言語スキルを高める内容となっているため必ず行うこと。

授業スケジュール

順序や内容は、受講生の目標到達状況に応じて変更することがある。

外部講師が担当する場合は、Zoom で実施する。

- 第1回 インTRODクシヨン
- 第2回 手話スピーチと質疑応答(1)
- 第3回 手話スピーチと質疑応答(2)
- 第4回 インタビュー活動(1)
- 第5回 インタビュー活動(2)
- 第6回 数字・固有名詞・借用語の通訳
- 第7回 サマリートレーニング(日本語→日本語)
- 第8回 サマリートレーニング(手話→手話1)
- 第9回 サマリートレーニング(手話→手話2)
- 第10回 サマリートレーニング(日本語→手話1)
- 第11回 サマリートレーニング(日本語→手話2)
- 第12回 サマリートレーニング(手話→日本語1)
- 第13回 サマリートレーニング(手話→日本語2)

第 14 回 逐次通訳（手話→日本語）

第 15 回 逐次通訳（日本語→手話）

授業時間外学修情報

■毎週、授業時間外で取りくむ課題を提示する。当該課題は、手話通訳の前提となる日本手話と日本語の言語スキルを高める内容ですので、授業にスムーズについていけるように必ず取りくむこと。

■手話通訳技能認定試験（手話通訳士試験）、手話通訳者全国統一試験の合格を目指す場合は、授業及び宿題をこなすだけでは難しいので、手話の流暢性を高めるために、地域の手話サークルに参加する、聴覚障害児の放課後等デイサービス事業（NPO 法人きらきら）の活動に参加するなど、積極的に学外で経験を積むことを奨励する。

■手話通訳の資格取得を目指す学生には希望に応じて、授業外の指導を行っている。詳細は主担当教員まで問い合わせること。

成績評価基準(授業評価方法) 及び 関連するディプロマポリシー

■出席の確認は毎回授業終了後に提出されたリアクションペーパーで行う。リアクションペーパー提出期限は授業翌日の昼 12:00 である。

■公欠の対象となる病気、忌引、教育実習等については、公欠の手続きを取ること。欠席をするときは理由にかかわらず、教員に連絡をすること。

■積極的・主体的な学び（積極的な手話表出練習、講師への質問や話しかけ、他の受講生の手話表出や講師とのやりとりからの学び、宿題の提出回数、自主的に行う学習等）…60% （A・B・C・D・F・H・I）

■授業内・外において取りくんだ課題の内容に対する評価…40% （A・B・C・D・F・H・I）

受講条件(履修資格)

資格「言語としての日本手話」（IA/IB・IIA/II B）を単位取得済であること。